日本自己血輸血学会　貯血式自己血輸血実施基準（2007）
－予定手術を行う成人を対象とした原則－

適応	● 輸血を必要とする予定手術とする。
年齢制限	● 制限はない。80 歳以上の高齢者は合併症に，また若年者は血管迷走神経反射（VVR）に注意する。
Hb 値	● 11.0g/dL 以上または Ht 値は 33%以上を原則とする。
血圧・体温	● 収縮期圧 180mmHg 以上，拡張期圧 100 mmHg 以上の高血圧あるいは収縮期圧 80mmHg 以下の低血圧の場合は慎重に採血する。 ● 有熱者（平熱時より 1℃以上高熱あるいは 37.2℃以上）は採血を行わない。
禁忌	● 菌血症の恐れのある細菌感染患者，不安定狭心症患者，高度の大動脈弁狭窄症（AS）患者，NYHAⅣ度の患者からは採血しない。
ウイルス感染者への対応	● 原則として制限はないが，詳細は施設内の輸血療法委員会の判断に従う。
目標貯血量	● 最大血液準備量(MSBOS)あるいは外科手術血液準備式(SBOE)に従う。
1 回採血量	● 上限は 400 mL あるいは循環血液量の 10%以内とする。 ● 体重 50kg 以下の患者は，400mL×患者体重/50kg を参考とする。
採血間隔	● 採血間隔は原則 1 週間に 1 回とする。 ● 手術予定日の 3 日以内の採血は行わない。
鉄剤投与	● 初回採血の 1 週前から毎日，経口鉄剤 200 mg を投与する。 ● 経口鉄剤で不足する場合あるいは経口摂取できない場合は静脈内投与する。
採血者	● 医師（歯科医師）あるいは医師の監督のもとで看護師が行う。看護師が行う場合には前もって監督医師に連絡する。
皮膚消毒手順	1）　採血者は穿刺前に手洗いする。 2）　70%イソプロパノールまたは消毒用エタノールを使用し十分にふき取り操作を行う。 3）　消毒は 10% ポビドンヨード（ヨード過敏症は 0.5%グルコン酸クロルヘキシジンアルコール）を使用する。 4）　消毒後は 30 秒以上待った後，穿刺する。
採血手技	● 回路の閉鎖性を保つ。プラスチック留置針による採血は原則として避ける。 ● 皮膚消毒後は穿刺部位に触れない。必要時には滅菌手袋を使用する。 ● 皮膚病変部の穿刺や同一バッグでの再穿刺はしない。
採血中の注意	● 採血中は常に血液バッグを撹拌し抗凝固剤と血液を混和する。 ● 採血中は VVR の発生に絶えず注意する。
VVR 予防	● 若年者，低体重者，初回採血者は VVR に対し十分注意する。
VVR への対応	● VVR 出現時は採血を中止し，頭部を下げ下肢を挙上する。補液を行う。
採血後の処置	● チューブをシール後に，採血相当量の輸液を行い抜針する。 ● 抜針後 5-10 分間（ワルファリン服用患者は 20-30 分間）圧迫止血する。 ● ペースメーカー装着患者は抜針後，患者から十分離れてシールする。
採血バッグの保管	● 専用の自己血ラベルに患者氏名，生年月日，ID 番号などを記入した後，採血バッグに貼布する。 ● 採血バッグは輸血部門の自己血専用保冷庫で患者ごとに保管する。
自己血の出庫と返血	● 患者氏名，生年月日，ID 番号などを複数の医療従事者が確認する。
同種血への転用	● できない。